

# にこにこ通信

☆保育コンシェルジュ通信☆

令和3年度 1号



令和3年度も保育コンシェルジュ2人が、高砂市の教育・保育施設や子育て支援事業などの情報を「にこにこ通信」で発信していきます。また、「保育所、認定こども園ってどんなところかな」「どんなことをして過ごしているのかな」「保育所に入園するには、どんな手続きが必要なのかな」など、入園前の保護者の方の疑問や不安にお答え出来るように、市役所幼児保育課窓口で入園相談等を行っています。「コロナ禍で外出はちょっと…」という方は、電話相談も行っていきますので、是非ご利用ください。

さて、コロナ禍でにこにこ通信の更新もしばらくお休みしていましたが、緊急事態宣言解除に伴い、いよいよ令和3年度1号を発信したいと思います。今回は、増築改修工事を終えてリニューアルした米田こども園、曽根こども園を紹介していきます。

## ※ 米田こども園

前回のにこにこ通信で、米田保育園の旧園舎解体工事前の様子をお伝えしましたが、今回は増築後の新園舎や、コロナ禍での感染症対策の様子をお伝えします。

門扉を入ると、親子で一緒に手の消毒ができるように消毒液が置いてあります。また、送迎時の密を避けるために、乳児クラスはお部屋の前で、幼児クラスは門扉の所で「いってきます」をするなど、感染を未然に防ぐためにご協力いただいています。



コロナ禍の生活が始まって約1年半。いつもの「てあらい、うがい」に「マスク」が増えて毎日の必需品となりました。園では、マスクは先生と3歳児以上が着用しています。

また、ソーシャルディスタンスが難しいこどもたちですが、「なんだか踏みたくなる」というこどもの好奇心をうまく活かして、床に手作りの足形を貼り、その上に並ぶことでお友達との距離がとれるように考えられています。手洗い場には手洗いポスターが貼ってあり、ポスターを見て真似をしながら真剣に手洗いをしているこどもの様子が見られました。園の中には、毎日の生活の中で楽しみながら、自然に感染症対策ができるように様々な工夫がされていました。



きれいになったかな



マスクをお片付け



11:00 を過ぎると、給食室から美味しそうな匂いがしてきました。今日のメニューは「わかめと焼きあなごの酢物」「れんこんの五目煮」「ジョア」です。こどもたちは自分のマスクケースにマスクを入れて、先生の手作りの十字型アクリル板で仕切られたテーブルに座って給食を食べていました。コロナ前とは違って静かに食べる姿が定着していました。少し寂しい気もしますが、おしゃべりをしないで食べる事で、食べ終わる時間が早くなり、その分他の活動の時間が増えたというメリットもあったそうです。また、お昼寝は十分に間隔がとれるため、広いホールを利用していました。

ポーチには3歳以上児さんが作った「どろ団子」のお店がありました。つつつるの「どろ団子」が完成すると最後に絵の具でカラフルな色がつけられていました。こどもたちのおみせ屋さんごっこ遊びでも、手作りの消毒が置いてあるそうです。遊びの中でも手洗いうがい消毒が定着してきているのですね。





インスタ映え♪



いきものランド



秋の収穫が楽しみです

## 先生にインタビュー

◇米田こども園の魅力について教えてください

「米田こども園は、昔から地域の方々との交流を大切にしています。園舎の向かいには「よねだこどものうえん」があって、地域の方々に教えて頂きながら、こどもたちがお野菜を育てています。また、卒園児の保護者の方から、保育園のシンボルツリーをキャラクターにした「くすのきさん」「ふうのみちゃん」の絵を頂きました。こどもたちも大好きです。」

◇園舎の増築後のエピソード等がありますか

「園舎が新しくなったことで、駐車場からの視界が広がり、園庭で遊んでいるこどもの様子を見ることができるようになったと、保護者の方から喜ばれています。」

◇コロナで行事はどうなっていますか

「たくさんのこどもが集まる行事は、年齢、クラス単位での行事に変更しています。お誕生会はクラスで行っていますが、他のクラスにも聞こえるように放送したり、保護者の方には行事の写真を貼り出すなどして発信しています。」

◇給食の人気メニューを教えてください

「一番人気はカレーライスです。納豆ハンバーグもよく食べていますよ。」



木陰のベンチがきもちよさそうです



ふうのみちゃんとくすのきさん

広い園庭の奥では、大きなくすのきさんが米田こども園のこどもたちを見守っていました。

## ▲ 曾根こども園

曾根こども園は、曾根幼稚園と曾根保育園が合併して令和2年度より認定こども園になりました。また、園舎の老朽化に伴い、「安全・安心に利用できる、園児にとって魅力がある、教育・保育環境の充実と小学校との連携が推進できる、地域の子育て支援の拠点、環境との調和が図られた施設」をコンセプトとして増築改修工事が行われました。卒園児の方の思い出深い園舎の面影は残しつつ、こどもたちが快適に過ごせるよう設備等が整えられました。駅舎を思わせる三角屋根のエントランスを入ると、青々とした芝生と園庭が広がり、雨の日も濡れずに部屋まで行くことができるように屋根付きの渡り廊下が設置されています。



増築した園舎には、3歳未満児の部屋や子育て支援事業のえがおルームがありました。部屋はバリアフリーになっており、裸足で歩いてケガをすることのない素材で作られた広いウッドデッキが手洗い場へと続いています。そして大きな屋根が日差しや雨からこどもたちを守ってくれていました。また、園舎に隣接した駐車場があり、園児と車の出入り口が分かれているので送迎時も安心です。

取材時、セミの声がにぎやかに響く中、園庭で水遊びを楽しむ子どもたちの姿をみかけました。楽しそうな笑い声が聞こえ、可愛らしい様子に微笑ましい気持ちになりました。



みずあそび楽しそうですね♪



塗り替えしてきれいになりました！

今回取材に行き、先生方の感染症予防への意識の高さを感じました。そして、子どもたちが安全安心に楽しく園で過ごせるように工夫されていました。私たち大人でも、マスクをしていることで日常の会話が聞き取りづらいことがあります。それ以上に子どもたちには先生の表情や言葉は伝わりにくいと思います。例えば、食事中に「かむ」という動作の口元を見せながらのお手本が出来なくなったため、どのようにしたらわかりやすいのか試行錯誤していることなど、日々奮闘する先生方の様子が伝わってきました。日中の長い時間を園で過ごす子どもたちにとって、園は大切な生活の場となります。感染予防が自然と身につくことで自身を守ることにも繋がっているのですね。

先が見えない状況ですが、コロナが収束し、子どもたちの成長をより身近に、今よりもっと先生やお友達と触れ合う機会が増える日が一日も早く来てくれることを願っています。